

目指せ!
660kg

JA 柏崎 業務用米「ゆきん子舞」栽培ごよみ

① 初期生育量確保 ② カメムシ防除 ③ いもち病・紋枯病防除

品種の特徴

- **多収性の早生品種。**
[5月7日植えて、7月25日頃出穂、8月31日頃収穫]
- 耐倒伏性は強 [87cm]
- 穂発芽性は易。
- いもち病の抵抗性は中・紋枯病にはやや弱い

病害・雑草防除

- いもち病・紋枯病は箱施用剤で確実に防除する。
防除例：エバーゴルフフォルテ箱粒剤 1箱当たり50g
- 病害の発生が見られたら直ちに追加防除を行う。
- **カメムシ被害が出やすいため、確実に防除・畦畔管理する。**
防除例：スタークル粒剤 10a当たり3kg
- 多肥栽培となるため、除草を徹底する。
(上記防除例 平成30年2月1日現在の登録農薬により記載)

施肥

- 化成肥料を使用し、基肥は窒素成分 7kg/10a、穂肥は合計窒素成分 6kg/10aを2回施用する。大豆跡の基肥は無肥料とする。
- 肥切れによる減収を防ぐ為基肥は一発が望ましい。
施肥例 ① 一発基肥+穂肥(+穂肥)
② 高窒素基肥+穂肥+穂肥

基 肥	① 早生スーパー基肥パワフル30(30-10-6) 50 kg/10a			
	② 高窒素エコマル(18-8-8) 40 kg/10a			
穂 肥	商品名	1回目	2回目	
	選 択	穂肥520	20 kg/10a	20 kg/10a
		塩 安	12 kg/10a	12 kg/10a
		尿 素	7 kg/10a	7 kg/10a

主な作業と管理のポイント

月	4月		5月			6月			7月			8月			9月			
	旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
				田植え			中干し			①穂肥	②穂肥	出穂	収穫					
	ほ場選定		田植え			生育調節			穂肥施用			栽培管理			収 穫			
	<ul style="list-style-type: none"> カメムシ被害が比較的少ない圃場を選択する。 地力の高い圃場では減肥する。大豆跡では基本的に、基肥を施用しないため必要に応じて追肥対応する。 鳥害対策ため、ほ場の団地化を図る。 		<ul style="list-style-type: none"> 田植えは5月上旬に終了し生育量を確保する。 栽植密度は㎡あたり18株(60株セット)以上で行い穂数を確保する。 			<ul style="list-style-type: none"> 中干しは田植え1ヶ月後を目安に開始する。 出穂1ヶ月前(6月下旬)には中干しを終了する。 			<ul style="list-style-type: none"> 1回目は出穂25~23日前(6月末~7月第1週頃)に窒素成分で3kgを目安とし行う。 2回目は出穂14日前に窒素成分で3kgを目安とし行う。 			<ul style="list-style-type: none"> カメムシ対策として畦畔の除草および、薬剤防除を確実に行う。 いもち、紋枯れ病が発生した場合は追加防除をする。または、発生前に予防剤で防除する。 			<ul style="list-style-type: none"> 黄化割合は85~90% 積算気温950~1000℃を収穫の目安とする。 こしいぶき並~やや早めの収穫となる。 刈遅れや乾燥時の胴割れに注意する。 			